

令和4年度定時社員総会議事録

日 時 令和4年5月25日（水）13時00分～16時30分

場 所 神戸市 神戸ポートピアホテル B1F 偕楽

代議員（社員）総数 302名（過半数は152名、3分の2は202名）

出席代議員数 281名（うち委任状による出席者91名）

出席役員 理事 村上信五、小川 郁、丹生健一、猪原秀典、大森孝一、奥野妙子、
欠畑誠治、香取幸夫、小島博己、阪上雅史、塩谷彰浩、土井勝美、
中川尚志、春名眞一、兵頭政光、福與和正、藤枝重治、藤岡 治、
吉崎智一。

監事 甲能直幸、高橋 姿、明海国賢。

議事録作成者 理事長 村上信五

司会の池園哲郎幹事から開会宣言があった後、丹生健一会長（第123回日耳鼻総会・学術講演会）から挨拶があった。

開 会

定款第16条に基づき村上信五理事長を議長に選出した。

村上信五議長から、定時社員総会・学術講演会開催にあたり、丹生健一会長はじめ神戸大学関係者に対する謝辞、ならびに本来なら本日の社員総会において役員立候補者の投票を行うべきところ、GW明けの新型コロナウイルスの感染状況が不透明であったことから、万全を期して、前回と同様に事前の郵便投票を行ったこと等について説明があった。

また、村上信五議長から、今回の代議員の出席者は190名、委任状による出席者91名の計281名で、開催および定款の変更の定足数（代議員302名の過半数152、および3分の2以上202）に達しており、定款第14条第1項および第18条第1項に基づき令和4年度定時社員総会を開会するとの宣言があった。

議事録署名人には医育機関から兵庫県地方部会の都築建三代議員、開業医関係から兵庫県地方部会の塩見洋作代議員の2名を指名した。

次に、令和3年度の物故会員53名に対して、黙祷を捧げた。

その後、審議に入った。

1. 報告事項

第1号報告 令和3年度事業報告について

令和3年度事業報告について、丹生健一副理事長から主要な事業と新たな事業等を中心に報告があり、詳細については、令和4年度定時社員総会資料冊子に掲載されている旨説明があった。

第2号報告 令和4年度事業計画について

令和4年度事業計画について、丹生健一副理事長から令和4年度定時社員総会資料冊子に基づき報告があった。

第3号報告 令和4年度収支予算書について

丹生健一副理事長から、令和4年度収支予算書（損益計算ベース）および同（資金ベース）について令和4年度定時社員総会資料冊子に基づき報告があった。

地方部会を除く日耳鼻本部の収支予算としては、

I 事業活動収支の部では、事業活動収入は、前年度に比べて26,593,000円増の590,517,000円となった。増額の主なものは、5 事業収入 1) 定期集会参加費等収入7,650,000円増、6 補助金等収入10,200,000円増、7 寄付金収入4,000,000円増、および8 雑収入 3) 雑収入で9,579,000円増である。また、減額の主なものは、5 事業収入 2) 展示会場収入で5,471,000円の減額が見込まれることである。

事業活動支出は、47,492,000円増の654,915,000円を見込んでいる。1 事業費については、38,689,000円増の522,540,000円である。増額の主なものは、(4) 会議費11,473,000円増、(5) 旅費交通費13,654,000円増、(18) 支払助成金10,000,000円増、(20) 委託費35,116,000円増、および(23) HP維持費10,000,000円増である。一方、減額の主なものは、(1) 職員給与手当2,309,000円減、(11) 印刷製本費1,786,000円減、および(13) 賃借料40,310,000円減となっている。

また、2 管理費は、8,803,000円増の132,375,000円である。増額の主なものは(11) 印刷製本費2,983,000円増、および(16) 租税公課7,116,000円増である。一方、減額の主なものは、(9) 図書費2,200,000円減、および(20) 委託費2,749,000円減である。

II 投資活動収支の部では、投資活動収入は10,340,000円で、その内訳は奨学基金取崩収入である。一方、投資活動支出は12,850,000円で、奨学基金積立預金支出7,000,000円、什器備品購入支出1,200,000円、および退職給付積立預金支出4,650,000円である。

III 財務活動収支の部では、長期貸付金収入3,167,000円がある。

IV 予備費支出の部では、予備費3,000,000円を計上している。

以上日耳鼻本部をまとめると、当期収支差額は△66,741,000円であるが、これに前期繰越収支差額129,000,000円を加えて、次期繰越収支差額は62,259,000円となっている。

地方部会を含む日耳鼻全体としては、

I 事業活動収支の部では、事業活動収入799,957,323円、事業活動支出860,966,437円で、収支差額は△61,009,114円である。

II 投資活動収支の部では、投資活動収入は、12,240,000円、投資活動支出17,482,000円で、投資活動収支差額は△5,242,000円である。

III 財務活動収支の部では、長期貸付金収入3,167,000円がある。

IV 予備費支出は3,200,000円である。

これをまとめると、当期収支差額は△66,284,114円であるが、これに前期繰越収支差額451,733,466円を加えると、次期繰越収支差額は前年度より14,499,227円増額の385,449,352円である。

第4号報告 専門医制度について

奥野妙子専門医制度委員会担当理事から、専門医制度について、昨年10月から機構認定専門医の広告ができるようになったこと、および共通講習について、2018年以降の研修開始の医師については更新時の必修科目が8項目となったこと等について報告があった。

第5号報告 第124回総会・学術講演会の宿題報告および臨床講演について

中川尚志次期会長から、第124回総会・学術講演会の宿題報告および臨床講演について、次の会員に依頼したことが報告された。

宿題報告：

- ・猪原秀典会員（大阪大学教授）

HPV 関連中咽頭癌 一制圧への処方箋一

- ・小島博己会員（東京慈恵会医科大学教授）

中耳真珠腫の病態解明と粘膜再生による新たな治療戦略

臨床講演：

- ・三輪高喜会員（金沢医科大学教授）

嗅覚障害 一病態に基づく診療アプローチ

- ・清水猛史会員（滋賀医科大学教授）

上気道炎症の病態と制御 一臨床における疑問に挑む一

第6号報告 日耳鼻研究奨励賞について

丹生健一副理事長から、令和3年度日耳鼻研究奨励賞受賞者について、次の2名に決定

したことが報告された。

- ・津田 武会員（大阪大学）
好酸球性副鼻腔炎のpathogenic epithelial cellsの性状解析による病態解明と新規治療への応用
- ・中川拓也会員（千葉大学）
染色体外 DNA の空間的三次元構造解析に基づく HPV 関連中咽頭癌新規治療戦略の構築

第7号報告 輝く耳鼻咽喉科女性賞について

阪上雅史男女共同参画委員会担当理事から、輝く耳鼻咽喉科女性賞 2021 について、次の3名に決定したことが報告された。

- ・川島佳代子会員（大阪はびきの医療センター）
- ・新谷 朋子会員（とも耳鼻科クリニック）
- ・古川まどか会員（神奈川県立がんセンター）

第8号報告 耳鼻咽喉科教育・育成功労賞について

藤枝重治卒前・卒後教育委員会担当理事から、耳鼻咽喉科教育・育成功労賞 2021 について、次の6名に決定したことが報告された。

耳鼻咽喉科専攻医数が多かった機関

- ・堀井 新会員（新潟大学）
- ・将積日出夫会員（富山大学）
- ・藤枝重治会員（福井大学）
- ・楯谷一郎会員（藤田医科大学）

耳鼻咽喉科専攻医への勧誘および専攻医育成のために優れた取り組みをしている機関

- ・羽藤直人会員（愛媛大学）
- ・猪原秀典会員（大阪大学）

2. 決議事項

第1号議案 役員選任に関し、承認を求める件

村上信五議長から、定款の定めにより、本総会終結をもって、理事および監事全員が任期満了となるため、定款に従い令和3年9月に役員候補者選出管理会が設置され、管理会の長を平川勝洋会員に、管理会の委員を柿木章伸、細川清人、松延 毅、森 恵莉の各会

員に委嘱したことの報告があった。

また、投票はGW明けの新型コロナウイルス感染症の発生状況が不透明な状況であったことから、万全を期して、郵便による投票に変更したことの説明があった後、開票立会人として、病院関係から兵庫県地方部会の大津雅秀代議員、および開業関係から兵庫県地方部会の志水賢一郎代議員が指名された。両代議員は、開票に立ち会った。

開票終了後、平川勝洋役員候補者選出管理会の長から、以下の説明があった。

- ・本年2月28日を締切日として役員候補者の受付を行った結果、理事立候補者21名、監事立候補者3名があった。
- ・定時社員総会に先立ち郵送による投票を行うこととしたため、4月22日に投票方法の変更についてメールで通知するとともに、4月27日に理事候補者投票用紙を郵送し、5月19日を締切りとして投票を依頼した。
- ・理事候補者の投票は、女性立候補者2名を含む21名に対して、17名の定数連記、無記名投票を行った。
- ・女性立候補者が複数名であるので、定款施行細則第20条第(6)イ①により、先ず、女性のうち最も得票数の多い者（女性最多得票者）1名を決定し、次に、女性最多得票者を除いた者の中から得票順に決定する。
- ・監事については、定員3名に対して、立候補者3名であるため、定款施行細則第20条第(5)ロ括弧書きにより、投票は行わず、全員当選となる。
- ・なお、投票用紙の入った返信用封筒については、日耳鼻事務局に到着した日ごとにまとめられ、未開封のまま当地に持参され、本日開封した。

上記説明の後、平川勝洋役員候補者選出管理会の長から、開票の結果、選出された理事候補者は、50音順で朝蔭孝宏、池園哲郎、大森孝一、欠畑誠治、香取幸夫、小島博己、小林一女、塩谷彰浩、曾根三千彦、丹生健一、兵頭政光、堀井 新、本間明宏、村上信五、守本倫子、山唄達也、吉崎智一の17名であるとの報告があった。

村上信五議長から、17名を理事候補者として信任することについて提案があり、審議の上、これを承認した。また、監事立候補者の岡本美孝、高橋 姿、明海国賢の3名を監事候補者として信任することについて提案があり、審議の上、これを承認した。

次に、村上信五議長から、役員を選任決議を個別に行うとの提案があり、新理事として、朝蔭孝宏、池園哲郎、大森孝一、欠畑誠治、香取幸夫、小島博己、小林一女、塩谷彰浩、曾根三千彦、丹生健一、兵頭政光、堀井 新、本間明宏、村上信五、守本倫子、山唄達也、吉崎智一の17名および新監事として岡本美孝、高橋 姿、明海国賢の3名を、それぞれ出席代議員の議決権の過半数の賛成により選任した。

引き続き、一般社団法人日本臨床耳鼻咽喉科医会から理事として推薦された川寄良明役員候補者および野上兼一郎役員候補者について選任決議を行い、両名ともそれぞれ出席代議員の議決権の過半数の賛成により選任された。

なお、被選任者は、それぞれその就任を承諾した。

第2号議案 令和3年度貸借対照表および正味財産増減計算書に関し、承認を求める件

丹生健一副理事長から、令和3年度貸借対照表、正味財産増減計算書および資金ベースの収支決算書について、令和3年度定時社員総会資料冊子に基づき説明があった。

地方部会を除く日耳鼻本部の収支決算としては、

I 事業活動収支の部では、事業活動収入は、予算額に対し、117,881,242円増の681,805,242円となった。増額の主なものは、4 会費収入約320万円増、5 事業収入1) 定期集会参加費等収入約7,670万円増、2) 展示会場収入約390万円増、5) 専門医審査登録収入約680万円増、6 補助金収入等約1,540万円増、7 寄付金収入470万円増、および8 雑収入約10,000万円増である。一方、減額の主なものは、5 事業収入の3) 広告料収入約95万円減、6) 購読料収入約70万円減、および7) 補聴器相談医更新収入約120万円減である。

事業活動支出は、予算額に対し、54,310,631円増の661,733,631円となった。

1 事業費は、43,509,004円増の527,360,004円で、増額の主なものは、(6) 通信運搬費約110万円増、(8) 消耗品費約840万円増、(11) 印刷製本費約360万円増、(13) 賃借料約1,060万円増、(18) 支払助成金900万円増、(20) 委託費約2,810万円増、(21) 支払手数料約370万円増、および(23) HP維持費約730万円増である。一方、減額の主なものは、(1) 職員給料手当約180万円減、および(5) 旅費交通費約2,800万円減である。

2 管理費では、10,801,627円増の134,373,627円となっている。増額の主なものは、(11) 印刷製本費約450万円増、および(16) 租税公課約1,510万円増である。一方、減額の主なものは、(5) 旅費交通費約740万円減である。

以上、事業活動収支差額は、63,570,611円増の20,071,611円の黒字である。

II 投資活動収支の部では、投資活動収入は、奨学基金取崩収入および退職給付積立預金取崩により、10,187,200円であり、投資活動支出は、奨学基金積立預金支出700万円、および退職給付積立預金支出約330万円および事務所建替積立預金支出5,500万円等で66,466,250円である。収支差額は56,048,050円増の56,279,050円である。

以上、日耳鼻本部の決算をまとめると、当期収支差額は事務所建替積立預金に5,500万円返戻したことにより、マイナス36,207,439円であるが、前期繰越収支差額が158,753,708円あったため、次期繰越は122,546,269円である。

地方部会を含む日耳鼻全体としては、Ⅰ 事業活動収支の部では、事業活動収入 875,248,989 円、事業活動支出 808,530,307 円で、収支差額は 66,718,682 円である。

Ⅱ 投資活動収支の部では、投資活動収入は、10,336,198 円、投資活動支出 68,403,251 円で、収支差額はマイナス 58,067,053 円である。

以上、当期収支差額は 8,651,629 円であり、これに前期繰越収支差額 473,356,351 円を加えて、次期繰越は 482,007,980 円となっている。

監事を代表して高橋 姿監事から、令和 4 年 4 月 20 日に甲能直幸監事および明海国賢監事の 3 名で監査を行い、適正に行われていることを確認した旨の報告があった。

引き続き、高橋 姿監事から次のような意見が述べられた。

- ・ COVID-19 禍の困難な状況にあつて、すべての委員会、調査、行事が滞りなく遂行されたこと、特に Zoom を駆使した理事会等によりすべての課題に対応したことに対し、村上理事長はじめ現執行部の理事に敬意を表するとともに、アフターコロナにおいても学会運営にこの経験を活かしてほしい。
- ・ 例えば、すべての委員会をリアルで開催する必要があるのか、学術講演会については、リアルの参加、ライブ配信、オンデマンド配信など、会員の利便性、学習機会の増進、および経営改善の観点から検討を進めてほしい。

加えて、村上信五理事長から、公認会計士による報告書においても、適正に管理されている旨記載されているとの説明があった。

令和 3 年度貸借対照表および正味財産増減計算書について、審議の上、出席代議員の議決権の過半数の賛成により、原案のとおり承認した。

第 3 号議案 第 127 回総会・学術講演会の会長候補者選出に関し、承認を求める件

村上信五理事長から、第 127 回総会・学術講演会の会長候補者選出について、昭和 61 年 2 月理事会決定「会長の選出方法に関する理事会申し合わせ」に基づき、令和 3 年 7 月に、参与、代議員に会長候補者の推薦を依頼したこと、およびその結果を参考にして令和 4 年 4 月 22 日開催の理事会に諮り、会長候補者として宮城県地方部会の香取幸夫会員が候補者として承認された旨報告があった。香取幸夫会員を会長とする提案に対し、審議の上、出席代議員の議決権の過半数の賛成により、これを承認した。

3. その他

1) 会員情報新システムについて

丹生健一 WG 担当理事から、共通講習に関する e-learning の内容について報告があった。

2) HPVワクチンの男性への定期接種化について

丹生健一理事から、以下の報告があった。

- ・HPVワクチンを、中咽頭がんを含む頭頸部がん予防の観点から、男性にも定期予防接種の対象とすることについて、速やかに検討を開始してもらおうよう、昨年12月にHPVワクチンの積極的勧奨再開を目指す議員連盟に要望書を提出した。
- ・また、本年3月には、上記議員連盟で、HPVワクチンの男性への定期接種化について講演の機会を得た。
- ・このようなことを踏まえ、日耳鼻としてWGを新たに立ち上げ、日本産科婦人科学会と協力しながら、市民公開講座等により社会への周知を図るとともに、厚生労働省への働きかけを行っていく。

3) 新生児聴覚検査体制整備事業の推進について

福祉医療・乳幼児委員会担当の中川尚志理事から、以下の報告があった。

- ・厚生労働省と文部科学省が連携して、「難聴児の早期発見・早期療育推進のための基本方針」を取りまとめ、本年2月に各都道府県に通知した。日耳鼻ホームページにも掲載する予定である。
- ・聴覚障害の早期発見・早期療育が図られるよう、各都道府県に新生児聴覚検査に係る協議会を設置することとされているが、医師会、医会、小児科等と連携して、しっかりと機能するようにしてほしい。
- ・聴覚障害児支援中核機能モデル事業として自動ABR購入の補助があるので、積極的に活用してほしい。

4) WGについて

配付資料に基づき、以下の報告があった。

① 関連する学会との連携強化と活性化に関するWG

座長である兵頭政光理事から、WGの目的、ならびに日耳鼻・関連する学会会議の開催、関連する学会からの総会・学術講演会および秋季大会への企画演題の提案、関連する学会の診療ガイドライン等の評価、会員情報の共有、厚労科研やAMED等の情報共有などの取組み等について、報告があった。

② 他科・他職種との連携に関するWG

座長である兵頭政光理事から、日本歯科医師会との連携では、耳鼻咽喉科医師と歯科医師との連携が着実に進んでいること、日本歯科医師会が主催している嚥下機能評価研修会に日耳鼻から講師派遣していること、日耳鼻および関連する学会のシンポジウム等において歯科医師を演者に登用することが増えていること、また、リ

ハビリテーション医学会とも連携を深め、「耳鼻咽喉科リハビリテーション2021」を作成したこと、更に、言語聴覚士協会とも連携・協力を進めていることの報告があった。

③ 近未来の耳鼻咽喉科医療の在り方 WG

座長である猪原秀典理事から、アフターコロナを見据えて、如何に耳鼻咽喉科医のプレゼンスを維持向上させるかを目的に領域ごとに現状把握、問題点の洗い出し、ゴールの設定、アクションプランの作成を行ったことの報告があり、そして、その実現のためには日耳鼻の広報委員会や関連する学会、各地方部会、会員等の協力が必要であるので、支援・協力をお願いしたいとの依頼があった。

④ 耳鼻咽喉科保険診療体系見直し検討 WG

座長である藤岡 治理事から、令和4年度診療報酬改定に当たって、従来の外保連・内保連・日本医師会経由とは別ルートで、要望項目に齟齬を来さないように留意しながら、新たに本WGと臨床耳鼻科医会が共同で、厚生労働省と交渉を行ったことの報告があった。また、今後、指導管理料、リハビリテーションや在宅オンライン診療については、関連する学会、WG, 他科、他領域と相談・協調しながら進めていくとの報告があった。

⑤ 耳鼻咽喉科領域のリハビリテーション WG

座長である土井勝美理事から、WGの目標である耳鼻咽喉科リハビリテーションのエビデンス集積と標準化、耳鼻咽喉科リハビリテーション料の保険収載、診療所医師が実施できる耳鼻咽喉科リハビリテーションの確立について説明の後、成果として、日耳鼻で初めてとなる「耳鼻咽喉科頭頸部外科領域のリハビリテーション医学・医療テキスト」を刊行したこと、および研修施設を対象とするアンケート調査により、課題が明確になったことの報告があった。

⑥ 遠隔診療・オンライン診療に関する WG

座長である小島博己理事から、2021年にオンライン診療の案内を作成してホームページに掲載し、周知を図ったこと、オンライン診療に有用なデバイスやアプリに関し情報収集を行いまとめたこと、医療機器開発に関する情報をまとめたこと、保険医療についてまとめたこと、および医療機器開発に対する関連法規等をまとめたことなどの報告があり、配付資料を活用してほしい旨の発言があった。

⑦ 耳鼻咽喉科を社会にアピールする WG

座長である欠畑誠治理事から、ホームページの充実、オウンドメディアサイトのコンテンツの充実、SNASによる情報発信の導入、フォロワー数1.7万人超で医学関係学会ではナンバー1であること、学術委員会および卒前・卒後教員委員会との連携、メディカルノートとの連携、頭頸部外科月間・耳鼻咽喉科月間における事業、

関連する学会における市民公開講座等について、報告があった。

⑧ インターネット講習（研修）に関する WG

座長である香取幸夫理事から、昨年インターネット講習に関する要望についてアンケートを取った結果、小規模の講習会が多かったことなどの理由により、本年3月にインターネット講習の実施手順をホームページ上に公開したこと、および、この実施手順には、ライブ講演 Zoom Meeting を用いた配信、ライブ講演 Zoom Webinar を用いた配信、オンデマンド講演 YouTube-Google フォームを用いた配信の3つがあるので、活用いただきたいとの報告があった。

⑨ 耳鼻咽喉科のビッグデータ一元化に関する WG

座長である大森孝一理事から、1年目は日耳鼻の各委員会および関連する学会について現状把握を行ったこと、そして、質の担保されたデータの効率的な集積方法の検討という中で通常調査のデジタル化を行ったこと、また、今後の課題としてビッグデータを用いた研究の推進があるが、要望があれば意見をいただきたいとの報告があった。

⑩ 学会・臨床医会との連携 WG

座長である中川尚志理事から、情報発信源が学会ルートと医会ルートの2つとなり、会員への周知が徹底したこと、また今後については、共通の課題に対応していくこととする旨の報告があった。

⑪ HPV 関連がんと HPV ワクチンに関する WG

座長である猪原秀典理事から、本年9月4日に東京で、日本産科婦人科学会と共同によりハイブリッド形式で、市民・マスメディア向けの公開講座を開催し、社会にアピールしていくことの報告があった。

5) 地方部会長および代議員からの提案事項について

コロナウイルス感染による嗅覚味覚障害患者への迅速な対応に関して、愛知県地方部会代議員から提案のあったことについて、同代議員からの提案趣旨説明の後、学術委員会担当の兵頭政光理事から、以下の説明を行った。

- ・嗅覚味覚障害があればすぐに耳鼻咽喉科を受診してください、との情報発信を既にホームページ上で行っている。
- ・また、嗅覚味覚障害への対応について、会員向けの情報発信を本年4月11日にホームページで行ったところである。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策WGが中心となって情報発信していく。

6) S P I Oについて

加我君孝副理事長から、SPIO の設立趣旨および活動について報告があった。

以上ですべての議事が終了した後、村上信五議長から謝辞があり、閉会宣言があった。

令和4年5月25日

一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 令和4年度定時社員総会

議事録署名人（議長） 村 上 信 五 ⑩

議事録署名人（代議員） 都 築 建 三 ⑩

議事録署名人（代議員） 塩 見 洋 作 ⑩